

## 単元計画

- 1 三角形と四角形
- 2 長方形と正方形と直角三角形 3 数の大小

第1時	長方形と正方形	長方形をつくる活動を通し、「長方形」の用語と定義を理解し、長方形の性質を明らかにすることができる。
第2時	長方形と正方形	正方形をつくる活動を通し、「正方形」の用語と定義を理解し、正方形の性質を明らかにすることができる。
第3時	直角三角形	直角三角形をつくる活動を通し、「直角三角形」の用語と定義を理解し、直角三角形の性質を明らかにすることができる。
第4時 (本時)	発展練習	条件分岐の考え方をを用いることで、「正方形」「長方形」「直角三角形」の性質の理解を深めることができる。

- 3 もようづくり

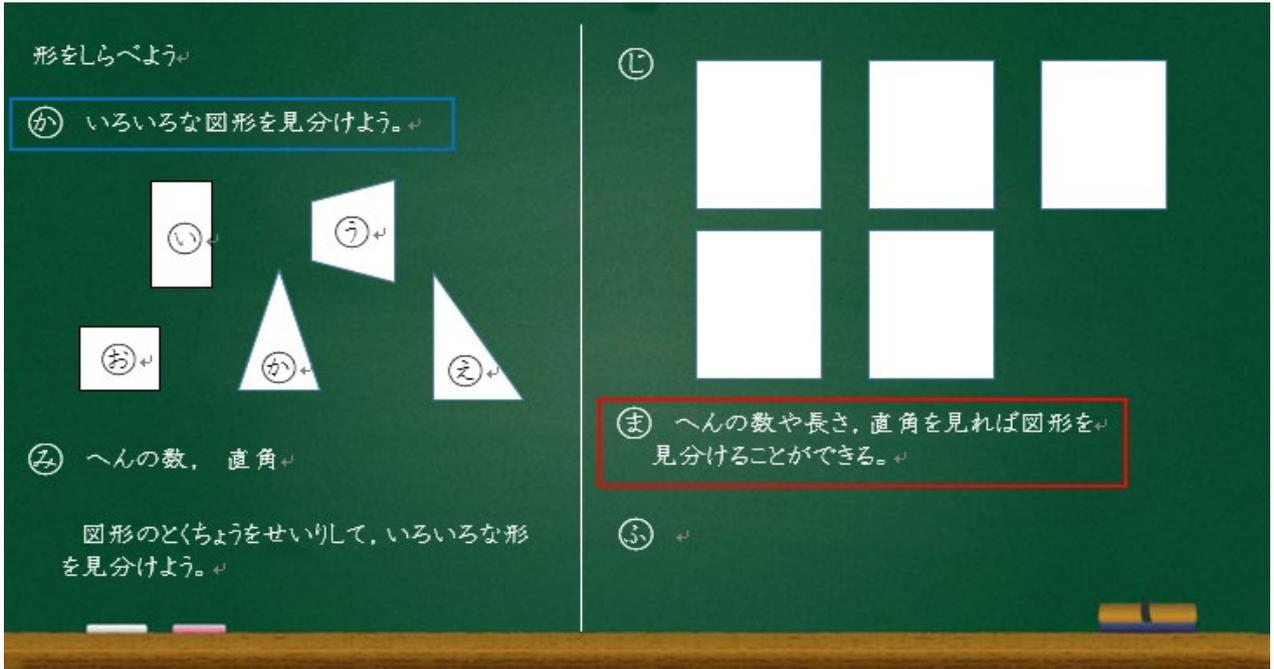
## 本時

- 1 ねらい  
プログラミング的思考(条件分岐)を用いることで、「正方形」「長方形」「直角三角形」の定義や性質について理解を深めることができる。
- 2 概要  
本時は、いろいろな図形を見分けるために、プログラミングの考え方を活用することによって、構成要素や性質により着目できるようにしていきたい。
- 3 教材・教具  
A2サイズホワイトボード、ワークシート(フローチャート)

## 展開

学習内容・活動	留意点・評価
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 課題をつかむ  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     図形のとくちょうをせいりして、いろいろな形を見分けよう。                 </div> </li> <li>2 見通しを立てる</li> <li>3 フローチャートに取り組む (1)各自、ワークシートに取り組む。 (2)ペアで取り組む。</li> <li>4 全体で確認する</li> <li>5 まとめる  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     へんの数や長さ、直角を見れば、図形を見分けることができる。                 </div> </li> <li>6 振り返る</li> </ol>	<p>○ア～オの様々な形の図形を見せながら、これらの図形を特徴に着目しながら、分類していくことを確認する。</p> <p>○分岐の視点は何になるか考えるようにする。</p> <p>○ワークシートを基に考えを出し合い、ペアで練り上げ、自力解決できるようにする。ホワイトボードにフローチャートを書き表すことで、見分ける視点が可視化できるようにする。</p> <p>○同じ箇所や内容でつまづいている児童が多い場合、適宜全体指導の時間をとる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                 フローチャートづくりを通して、辺の数や長さ、直角を確認し、図形を見分けている。                  (知識・理解 発表・ワークシート、ホワイトボード)             </div>

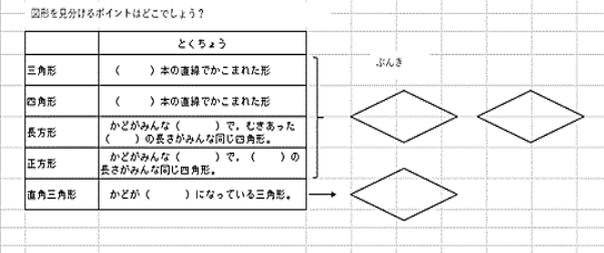
# 板書例



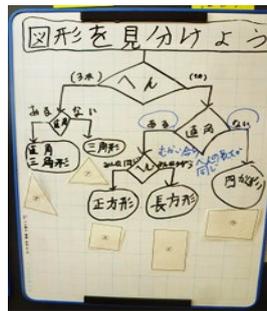
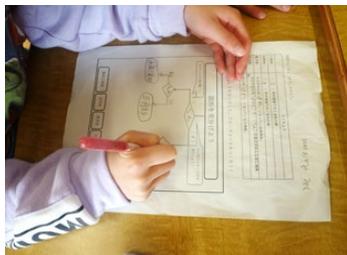
## プログラミング例

## 指導のポイント

1 図形の特徴を整理し、フローチャート（分岐）に入る言葉を見つける。



2 分岐の視点を「辺」と「直角」とする。



三角形、四角形、長方形、正方形、直角三角形の特徴を洗い出すことで、そこから共通事項を見出し、分岐に入る言葉を書き込む活動を行います。

児童が話し合いながら、辺の数や長さ、直角の有無といった判断する条件を考えたり、どのような順番の分岐をすれば正しく分類したりできるかを考えさせます。ここでは、フローチャートの書き方のルールもしっかりと押さえることが必要になります。

## 実践を振り返って

フローチャートの活用を通し、三角形、四角形、長方形、正方形、直角三角形の定義に着目して、要素ごとにまとめや違いを見付け、仲間分けすることができた。

